



# Movement Letter .2

## 前半は一宮のムーブメントの仕掛け人 星野博 さんに お話を伺いました。

アドバイザーの市野めぐみです。2月9日(日)午後。中央公民館301号室で、“まちこれWS☆ムーブメントの起こし方☆”の第2回を開催しました。参加者は32名の皆さん。

前半は、ゲストスピーチということで、一宮のムーブメントの仕掛け人“星野博”さんから“まつりづくりとまちづくり”のお話を伺いました。とってもわかりやすく、刺激的なお話でした。後半は、ワークショップを。1回目、皆さんで出し合った夢やアイデアをもう少し具体的に話合うことにチャレンジ。「なぜ、起こしたいのか」「起きればこうなる」「ありたい姿」などプラン作りを行いました。これがなかなか難しかった。文句や要望ばかりでなく、自分には何が出来るか、地域へ働きかける「志民」を目指しましょう！



第2回ゲストスピーカーの星野博さん！



☆まずは、今日始めての方に自己紹介☆

### 問題提起

過去の繁栄を引きずった価値観を背負いつつ、構造不況の中で生活を営む自分たちは、地域をどうとらえるのか、何が問題なのか、何を守り、何を後回しにするのか？



アグピー



いちみん

一宮市のシンボル「ツインアーチ 138」がモチーフの幸せを運ぶ妖精。体の上半身は澄んだ青空を、下半身は市内を流れる木曾川の清流をイメージしている。胸の数字は「1(いち)3(み)8(や)」を文字ったもの。



### 新たな まちづくりへ

何も持たないからこそ、対等な立場で資金を集めから企画づくりまで、対話の中から一緒につくり合う。

「何かやろう」じゃなくて「この指とまれ」僕はひとりでもやる！描くまちづくりの実現を！地域の潜在する小さな力を集める過程こそが「まちづくり」だから、残り364日(365-1)の人のつながりを大切に。



1. 今日、初めての方に自己紹介
2. ゲストスピーチ 星野博さん “まつりづくりとまちづくり”
3. ワークショップ プランづくり
4. ふりかえり



### 実験と失敗・志民と市民力

生活圏の危機感を共有をするために(行政・企業・市民・組織)連携を目指す「志民」その手段としてミッション(想い)→パッション(情熱)→アクション(行動)→セッション(対話)の実験を繰り返し、失敗があるからこそ次につながる対話が生まれる。必要なことは相手も否定しない、自分も否定しないバランス感覚。

# 後半はワークショップ。フランづくりにも挑戦しました。



## A：子どもを中心にした 場づくりプロジェクト



## B：農家マルシェプロジェクト



## C：ふれあいの森を活用したプロジェクト



## D：ムーブメント応援隊

いつやるの？ 寒くない時期？ 4月～11月くらいかなあ。毎月企画を考えてふれあいの森を拠点に手作りのまつりをつくる。強制しない、結束とは・「FUN」や「Like」アート好き・音楽好き・ダンス好き・映画好き。芝生や野外など素敵な場所。駐車場がないのを逆手にとって、坂部駅から歩いてもらえないか。誰がやるの？ アートドッグやどすこいライブのイメージで小さくはじめるのがベターだね。そうやって、小さなまつりをふれあいの森を拠点にしたいね。そういえば、Aはこども、Bは農家マルシェだね。一緒に考えられないかなあ。坂部駅からふれあいの森までの道をふらふらと歩きながら、農家マルシェを楽しむ。森内ではこども向けのワークショップや体験があり楽しむ。映画や音楽やダンスやアートがあるみたいなイメージだね。でも結局、自分は何ができるんだろう。ムーブメント応援隊みたいな役割も重要だね。書類作りが得意。人脈が得意。何か作っている。コツコツ作業するのが得意。料理が得意。宣伝しますのが得意。チラシ作りが得意。普通だけど人が好きみたいな・・・。(以上、C班での対話より)



デスクでのワークも大事ですが、夢ばかりを語るのではなく、現場を皆でみたり、実際動き出して、半年後までに私は〇〇するといった目標を実現させることも大事ですね。

### MEGUMIのコラム

#### 市野流「阿久比って、どんなところ？」

自然豊かで農業が盛んな地域で新興住宅地に若い住民が急増し、阿久比駅は特急が停まるようになり、名古屋まで25分で便利になりました。では、いったい何が課題なのか。

経済や人の関心が名古屋もしくは周辺市町へ向かい、当然こどもたちの関心も外に向き地域の活力は衰退するでしょう。

彼らが大人になったとき、阿久比に住み続けたい、戻りたいと思う郷土愛を私たち大人は育みあうことができるでしょうか。

地域づくりは「目標→計画→実践」の繰り返し

- ・ 少しでも先を、出来るだけ正確に見通す。
- ・ 目の前の要望への対応だけでなく、少し先に備えた柔らかな視線を持つ（多少幅のある視点）
- ・ 進め方の方針を決める（年度の重点）
- ・ 各年度の詳しい、小さい目標を決める。
- ・ 実践しながら、目標・計画も手直しする。

### 第2回（2月9日）のふりかえりシートより（みなさんから本当にたくさんのご意見、ありがとうございます。）

- ・ それぞれの意見がでてくると、全く違った視点が出てくることがとても面白かった。弱みを強みに変えることが大切だと思う。
- ・ 自分が携わる祭りに先細りを感じていましたが、星野さんのお話を伺い、勇気を貰いました。自分も楽しみながら継続していきたいです。
- ・ 中学生までは育った町がすべて。高校大学社会人と世界が広がれば、町への関心が薄れていく。自分にとって楽しいことがなければ、町のことは興味がない。商工会や役場、NPOの以外での参加者や大学生や20代の若い参加者が少ないことが問題。こどもを持つとこどもを通して町に関心が戻るけど、終わると関心が無くなる。次の世代が育たない理由かな。
- ・ 前回と違って課題を変化させ、今あるまつりを利用し、それを上手く活用させる方向性ですすめることで、町民やそれ以外の方を巻き込むことは有意義。
- ・ 熱意があるが主張のみが強く出てしまう。今後は、お互いの意見を尊重して気持ちよく進めるようにまとめる力が必要と感じた。まずは、**場作り小さいことから始める**といいのかと思う。
- ・ 星野さんのお話やアドバイスで何かやりたいという気分になった。少しずつできるのではないかと希望が見えた。
- ・ まちおこしについて真剣でよかった。横のつながりができるということは良いことだと思う
- ・ 次回は**理想と現実を少しでも近づけて**、話し合っていきたい。
- ・ 気持ちはあるけど、どうしたらいいかわからない人・・・多いのだなあと感じた。

第3回は、





と今後の展開について